

## 「日本空間デザイン賞 2016」にて 3 作品が銀賞を受賞

このたび、乃村工藝社が空間づくりを担当させていただきましたプロジェクトが「日本空間デザイン賞 2016（主催：一般社団法人日本空間デザイン協会）」において 3 作品を受賞しました。

「日本空間デザイン賞2016」では、約800件のエントリー作品の中、深野友規が空間デザインを担当した「チューリップ四季彩館」および、高橋珠恵が担当した最新体感展望台「SKY CIRCUSサンシャイン60展望台」が銀賞を受賞しました。

また、執行昭彦が担当した「国立科学博物館 地球館リニューアル」が銀賞、上原裕が担当した館内 3 階にある親と子の探検広場「コンパス」が企画・研究賞をそれぞれ受賞。その他 4 作品が、BEST 50 に選出されました。

一方、当社グループ会社であるノムラデュオが担当した梅田蔦屋書店「蔦屋書店から『記憶に残る』メッセージ」ディスプレイウィンドウも、銀賞を受賞しました。

クライアントの皆様をはじめ、ご協力いただきましたすべての方々はこの場を借りて御礼を申し上げます。

今後とも生活者発想を基点とする集客力の高い環境の創造により、常にお客様の課題解決・ご要望に取り組み、最適な空間を、そして喜びと感動を提供し続けてまいります。



銀賞

### チューリップ四季彩館



撮影：Shin Photo Work Shinji Miyamoto

クライアント： 富山県砺波市 様

応募代表者： 文化環境事業本部 深野友規

チューリップの球根生産発祥の地、富山県砺波（となみ）市。そんな砺波市ならではの独自の栽培技術により世界で唯一、チューリップが一年中咲き誇るチューリップミュージアム。視界いっぱい無限に広がる花の万華鏡では、水平に加えて垂直にも広がる色彩の渦に息をのむ。3つの栽培方法を使い分けることで年間を通じた供給が実現する“500本ものチューリップ”と、新幹線のフロントガラスにも採用される高い精度、加工能力をもつ“曲げガラス”という、世界に誇る2つの“砺波のテクノロジー”のコラボレーションで、チューリップが渦を巻いて宙に浮かびあがる空間をつくりだした。



銀賞

### SKY CIRCUSサンシャイン60展望台



クライアント： 株式会社サンシャインシティ 様

応募代表者： CC 第二事業本部 高橋珠恵  
株式会社電通様・当社のコンソーシアム

新たな展望台としてフルリニューアルオープンした「サンシャイン60展望台」。

「SKY CIRCUS（スカイサーカス）」をコンセプトに、「見るだけの展望台」から「体感する展望台」へと進化を遂げた。光と鏡のトンネルで日本の四季の移ろいを表現する映像などを投影する無限反射映像トンネルや、キラキラ輝く60個の万華鏡、眺望・天候・疑似体験が楽しめるエンターテイメントなど、VRテクノロジーや4D体験、インタラクティブアニメーションといった様々な最新技術を駆使したコンテンツで、“眺望”を楽しみながら“テクノロジー”で遊べる、世界に類を見ない展望台が誕生した。

## 株式会社 乃村工藝社

札幌・仙台・名古屋・大阪・岡山・広島・福岡・那覇  
北京・上海・成都・香港・シンガポール・ミラノ・ニューヨーク

銀賞

## 国立科学博物館 地球館リニューアル



クライアント： 独立行政法人国立科学博物館 様

応募代表者： 文化環境事業本部 執行昭彦  
株式会社丹靑社様と設計施工共同推進・企画

約140年の歴史をもつ国立科学博物館“科博”。これまで常に実物資料の展示を中心に展開してきた。

その“科博”が、社会的な博物館ニーズに呼応する形で、今回はじめて本物（実物資料）を中心とした展示に据えながらも、映像演出や体験型展示など最先端の科学技術による手法と融合させた新しい科学博物館の展示の実現にチャレンジした。

企画  
研究賞国立科学博物館 地球館リニューアル  
親と子の探検広場「コンパス」

クライアント： 独立行政法人国立科学博物館 様

応募代表者： 文化環境事業本部 上原裕  
株式会社丹靑社様と設計施工共同推進・企画

国立科学博物館が有する第一級の資料と、子どもたちの主体的な活動を誘発する遊びのしかけを融合した展示スペース。体験を共有する、一緒につくる、体を触れ合わせるなど、親子の豊かなコミュニケーションを育むとともに、子どもたちが遊びや会話を通じて実物資料と出会い、新たな興味・発見を広げることがねらいとしている。

銀賞

梅田 蔦屋書店  
蔦屋書店から「記憶に残る」メッセージ乃村工藝社  
グループ

クライアント： カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 様

応募代表者： 株式会社ノムラデュオ 丹後 あかね

西日本初出店となるライフスタイル提案型「梅田 蔦屋書店」。その蔦屋書店からのメッセージとして、『記憶に残る』をテーマに店内入口のウィンドウディスプレイをデザイン。

35,000個ものパソコンのキーボードキーで一面埋め尽くされたウィンドウは、象徴的な情報家電の展示とともに過去から現在そして未来への想像を喚起させるデザインで「情報家電の進化」を表現。また“本”をモチーフにしたウィンドウでは、本と共に過ごす耽読（たんどく）な時と心豊かな創造を感じさせる空間につくりあげた。様々な期待感を抱いて来店するお客様に対するおもてなしの気持ちがこのウィンドウディスプレイにこめられている。

## ■ DSA 日本空間デザイン賞とは

1966年に創立し今年で50年目となる、一般社団法人日本空間デザイン協会が主催する世界最大規模の空間環境系のデザイン賞です。空間におけるコミュニケーションデザインの創造をめざす優秀なデザインを顕彰し続けています。今年度は約800点の作品から大賞1作品、金賞10作品、銀賞15作品、BEST 50賞24作品、復興支援賞1作品、地域賞2作品、学生賞1作品、企画・研究賞3作品を選出しました。

<http://dsa.or.jp/>

## 株式会社 乃村工藝社

札幌・仙台・名古屋・大阪・岡山・広島・福岡・那覇  
北京・上海・成都・香港・シンガポール・ミラノ・ニューヨーク